

広島県の地域医療を支えるために

広島大学の地域医療教育の現状

広島大学 地域医療教育センター
医学教育担当 宮地隆史



広島大学は広島県で唯一の医学部を有する大学です。

平成 21 年 4 月に広島大学に地域推薦枠（ふるさと枠）の学生が入学したのを機会に、平成 21 年 5 月より医学科内に「地域医療教育センター」が設けられました。

地域医療教育センターでは関連部門と協同して広島大学医学部の医学教育カリキュラムの改革を行っております。将来の広島県の地域医療を支える意欲のある医師を輩出するため、6 年間の一貫した地域医療教育を行えるよう計画・実践しています。その一つが平成 22 年度から地域医療システム学講座とともに開始しました地域医療実習です。医学部の 5 年生全員が必修の実習で、2 名ずつ、へき地の病院に 1 週間泊まりこみます。外来実習、病棟実習、診療所実習、訪問看護、当直など様々な経験を積んでいます。現在、前半の学生の実習が終了しましたが、地域の病院、住民の御協力で学生にとって、とても良い充実した実習が行われています。医学教育の観点からも学生が地域の医療の実情を肌で感じるにより、地域医療が身近になり、広島県に愛着をもった意欲のある立派な医師に育ってくれることを期待しています。

地域医療実習風景

〔 実習実施病院 〕

- 庄原赤十字病院
- 安芸太田病院
- 神石高原町立病院



学生のコメント

- ◆ 大学では経験できないもの、ここでしか見れないものを勉強してみたい
- ◆ 在宅医療や看護業務なども経験してみたい。